

こころの健康を 考えるつどい

心の病気が原因で「大切な命」を失わないため、みんなで心の健康について考えてみませんか。

共同作業所や憩いの家などの作品の展示や販売もあります。参加は無料です。お気軽にお出掛けください。

3月13日 (土) 13:00 開場

会場：豊科ふれあいホール

●第1部 (13:30～14:00)

健康づくり推進員による寸劇

健康づくり推進員の活動について、親しみやすい寸劇で紹介します。

●第2部 (14:00～15:30)

講演会

「うつ病の早期発見と自殺予防」

講師：小木曾 俊さん

(セイコーエプソン株式会社 総括産業医)

誰にでも起こりえるうつ病について分かりやすく解説。自殺に追い込まれてしまう状況や予防について学びます。



健康推進課保健予防係
(TEL)81-0726 (FAX)81-0703



約50人が参加。子どもたちの素直な思いに聞き入った。
(7月11日、堀金総合支所)

堀金「作文発表を通じて社会を明るくする会」

このたび、最優秀賞を受賞した宮澤さんが住んでいる堀金地域では、入賞した子どもたちが作文を朗読する会を独自に開催し、子どもたちの言葉を地域で分かち合っています。

この発表会は、平成14年から毎年開かれ、堀金地域の社会を明るくする運動実行委員会(丸山安英代表)が継続して取り組んでいます。

昨年7月11日、堀金総合支所で行われた同会には約50人が参加。入選した25人の子どもたちが、隣人へのあいさつを通じた体験談や、事件報道を聞いて考えたことなど、それぞれの思いを発表しました。そして、すべての朗読が終わると、大人たち一人一人が、発表した子どもたち一人一人に「作文をありがとう」などと声を掛けながら感謝状を手渡すというユニークなセレモニーが行われました。

当日のアンケートには、「緊張していたのに聞いてもらえてうれしいような気がしました」といった発表者の感想や、「どれも子どもたちの本音の言葉が素直に表れていると思いました」。「一人の子の思いは決して一人だけの問題でなく、周囲の人や将来の時間の中で大きな意味があるのでしょ」といった参加者からの感想が寄せられていました。

作文発表会で、言葉を分かち合う。

市内から8作品が入賞

社会を明るくする運動長野県作文コンテスト審査結果

社

社会を明るくする運動長野県推進委員会では、県内の小中学生を対象に、犯罪や非行などで感じたことなどをテーマにした作文コンテストを平成9年から実施しています。今回の作文コンテストには、県内から小学生の部3,364作品(市内からは501作品)、中学生の部2,605作品(市内からは255作品)の応募がありました。応募作品は長野県作文コンテスト審査委員会で審査され、小学生の部30作品、中学生の部30作品が入賞しました。市内の入賞者は次の皆さんです。



取材中、受賞の吉報を聞いた友人から祝福を受ける玖弥さん。

【最優秀賞】 「人に優しい世の中を目指して」

宮澤 玖弥さん (堀金中学校3年)

【優秀賞】 「戦争と優しさ」

森川 詩音さん (堀金小学校6年)

「キャンプで感じた事」

瀧川 直也さん (堀金小学校6年)

「命を大切にする」

宮下 壮太郎さん (明南小学校6年)

「命の大切さ」

遠藤 聖羽さん (堀金中学校3年)

【入選者】 「魔法の言葉」

小日向 瑞希さん (穂高北小学校6年)

「少しの勇気で世界が変わる」

小松 翔さん (堀金中学校3年)

「被害者と加害者について思うこと」

坂口 徳洋さん (堀金中学校3年)

●地域支援課でもご覧いただけます。

最優秀賞と優秀賞の作品を収録した作文集が、市内各小・中学校と各総合支所地域支援課で閲覧できます。ぜひご覧ください。

